



平成 29 年 4 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 経理財務部長 山本 健一  
(TEL. 092-288-8470)

### 繰延税金資産の追加計上及び関係会社株式の減損処理並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期において、繰延税金資産の追加計上及び関係会社株式の減損処理による損失計上をすることになりましたのでお知らせいたします。併せて、平成 29 年 3 月期通期の業績予想について、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 繰延税金資産の追加計上について

当社は、3 期連続の増収及び黒字確保の見通しとなりました。また、この連結黒字体質の確立に伴い、将来にわたり連続して課税所得の発生が見込まれることから、繰延税金資産の回収可能性を見直した結果、法人税等調整額△40 百万円（△は利益）を追加計上の見込みであります。

#### 2. 関係会社株式の減損処理について

当社は、平成 28 年 3 月期に持分法適用会社とした医化学創薬㈱（抗体医薬開発事業）の事業化が当初計画より遅れる見通しとなり、平成 29 年 3 月期連結決算において、のれんの一時償却 27 百万円を、「持分法による投資損失」として営業外費用に計上いたします。

また、平成 29 年 3 月期個別決算において、医化学創薬㈱に係る株式の減損処理を行い、関係会社株式評価損 85 百万円を特別損失に計上いたします。

なお、医化学創薬㈱の事業化について当初計画とのかい離はあったものの、事業は着実に進捗しており、今後も、グループに大きな相乗効果をもたらすべく努めてまいり所存です。

#### 3. 業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり連結当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 2,550	百万円 150	百万円 110	百万円 65	円 銭 4.53
今回修正予想（B）	2,302	153	88	80	5.63
増減額（B－A）	△247	3	△21	15	
増減率（％）	△9.7	2.6	△19.8	24.1	
（参考）前期連結実績 （平成 28 年 3 月期）	2,290	50	18	14	1.05

平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 570	百万円 △50	百万円 △25	円 銭 △1.76
今回修正予想（B）	516	△27	△50	△3.53
増 減 額（B－A）	△53	22	△25	
増 減 率（％）	△9.3	—	—	
（参考）前期実績 （平成 28 年 3 月期）	565	△64	△30	△2.18

修正の理由

（連結）

平成 29 年 3 月期は、営業力の強化と管理面の効率化に取り組んでまいりました。

上記の結果、売上高については下期受注が伸び悩み、期初発表数値よりも下回りましたが、人件費を始めとする固定費の効率化により売上原価率が改善し、営業利益は期初発表数値よりも若干上回る見通しとなりました。

一方、上記 2. の「持分法による投資損失」の計上により、経常利益は期初発表数値よりも下回る見通しとなりました。

なお、連結黒字体質の確立に伴い、上記 1. の繰延税金資産の追加計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は期初発表数値よりも上回る見通しとなりました。

（個別）

売上高は計画を下回る結果となりましたが、人件費等固定費の効率化により、経常損失は期初発表数値よりも大幅に圧縮見通しとなりましたが、上記 2. の「関係会社株式評価損」の計上により、当期純損失は期初発表数値よりも拡大する見通しとなりました。

以上